

2

1

6 だれだって自分が戦争を始めた悪者の国
 5 の人間などは思いたくないから。
 4 けつた小石がまたまどんぐりに当たつ
 3 ことでどんぐりがまわりだしたこと。
 (同意可)

(同意可)

8 まわり
 5 A 何で
 4 B く
 3 タ
 2 X 目
 1 a 初めて
 11 a 改めて
 10 X 工
 9 工
 8 鼻
 7 鼻
 6 (記述題)
 5 (完答)
 4 工
 3 工
 2 口
 1 b 決死
 11 c 不思議
 10 ア
 9 ウ
 8 ウ
 7 イ
 6 ア
 5 ウ
 4 ウ
 3 ア
 2 イ
 1 b 道徳
 11 c 冷静

2

1

11 a 改めて
 10 X 工
 9 工
 8 ウ
 7 イ
 6 心を操る力
 5 (記述題)
 4 ウ
 3 イ
 2 ウ
 1 a ア
 11 c 不思議
 10 ア
 9 ア
 8 工
 7 イ
 6 ア
 5 ウ
 4 ア
 3 イ
 2 ウ
 1 b 道徳
 11 c 冷静

配点	
1	10・11
2	1・2 各2点×12=24点
1	5
2	6 各6点×2=12点
その他	各4点×16=64点
100点	

[1]

1 「受け」は評判や人気を意味することがある。ここでは、後ろに「おとながどういうものを好むのか」「褒められる」などとあることから評判に近い意味であるとわかる。

2 先生と競い合っているわけではないため、工はふさわしくない。

3 「私が**A**で**B**を操ろうとしたように」とあることから、ここより前で筆者が「だれかを操った」と言える内容を探す。「おとながどういうものを好むのか」わかつている筆者が先生に「褒められる」ために「先生受けがいい考え方や学び」を作文に書き、よい成績を得るのは、先生を作文で操っていると言える。

4 I 前にある「ことばをジャックすれば、思考に干渉できる」の具体例が後で述べられている。II前の段落からの『平和』とは何か。「一言で表すのはとても難しい」→しかし「確実に言えるのは」という流れである。III(二)から「巧妙なことばたちに対抗するためにはどうすればいいか」という話題に移っている。

5 —線④の前に「だから」があり、その前に理由が書かれている。特に設問で指示がなくとも、記述題ではあくまで文中の言葉は「材料」として、自らわかりやすい「説明」を組み立てるように心がけよう。「だれだつて：悪者にはなりたくない」ということが、戦争を肯定してしまう人が出てくることに上手くつながるよう書かれるのがよいだろう。

6 —線③の後に書かれており、そこから——線⑤においても同じ話題が続いている。通読時は話題を見失わないよう意識する」と。

7 ——線⑥のように筆者が述べている理由は、同段落にある「確実に言えるのはできない」という部分に書かれている。「——と対応するのはイである。

8 「これら」とあるため、直前に並んでいる内容を見る。「大切な平和のために」という発言が、本当に平和を守ろうとしているのか、それとも戦争を起こうとしているのか。また、ある忠告が聞いておくべきものなのか、それとも「おまえが悪い」「あなたのため」と言つて自分の心を砕き、自由を取り上げようとしているものなのか。これらをまとめているのは工である。

9 「『ひたつ』とくる感覺をも冷静に疑つてみる」のであった。

10 本文中での意味を問われたときも、あくまで辞書上の意味に基づいて考えるのが正解するコツである。そのうえで、本文の前後の流れをおさえてより適切なものを選ぼう。そもそも知らなかつたものは辞書を引いて意味を確認しておこう。

11 a 「改」の左側は三画で書く。教科書体では最後ははねあげない。右側は四画で書く」と。b 「しんによう」は三画で書く。「徳」の字形をまちがえないようにおぼえよう。c 「冷」のへんは「にすい」である。「争」の真ん中の長い横棒をしっかりと書こう。

[2]

1 a 「初」は外来語でファーストに近い意味、「始」はスタートに近い意味である。左側を「しめすへん」にしてはいけない。b 「決死」は死をも覚悟して物事を行うこと。c 「議」を同音の異字とまちがえないように。思ひはかる」とも言葉に表すこともできないほど「ふしぎ」と考えると「びんぶん」がつくはずである。

2 X 「目をまるくする」はおどろいて目を見張る様子。Y 「開いた口がふさがらない」はおどろきあきれてものが言えないさま。Z 「鼻が高い」は誇らしい気持ちであること。

3 後に「どつちもちかづくのがこわかった」とある。

4 ア「海の小島」はチエのいる机であつて教室ではない。イ「勇気をだして」学校に行こうとしたのではなく、クラスのみんなと仲良くなしようとしたのである。エ「しかたなく」が誤り。

5 —線②の前に「なので」があり、その前に理由が書かれている。

6 [1]5と同じく「わかりやすく」説明することを心がけよう。一行前の「小石にたい当たりされた」のような比喩的な表現はそのまま用いるよりも、より意味が伝わりやすいように言いかえるほうがよいだろう。

7 ア「やんちやな」は文中に根拠がない。ウ「ポケットにいっぱいのどんぐりを入れていた」ときにはおどろいていない。エ「おじいさんがない」とことにはおどろいていない。

8 「くらくらと」だけをたよりにしても正解できるが、「さつきのどんぐりみたいに」にも注目できていてほしい。

9 麗奈ちゃんという友達がいるためエはふさわしくない。

10 ア以外はいずれも文中に根拠がない。

11 この場面ではひとりでいるためアの「離れられないでいる」は誤り。いやエは見えそうではあるが文中に根拠がない。